

Wakayama University Tourism Update

Semiannual Newsletter of Tourism Education & Practice

WTU Spring/Summer 2016



サンティアゴ・デ・コンポステラ大学「JAPAN DAY」@スペイン
(関連レポート：2ページ)

Contents ー目次ー

1. Reports ー和歌山大学観光学部生の国際 / 地域活動報告を紹介ー
2. Topics ー過去のイベントとニュースー
3. Future Events ー今後のイベント紹介ー

Reports 一和歌山大学観光学部生の国際 / 地域活動報告を紹介一

■ 太田 真里亜さん (2015 年度卒業生 / 大阪府立鳳高等学校出身)

北川 美紀さん (2015 年度卒業生 / 智辯学園高等学校出身)

白石 夏澄さん (2015 年度卒業生 / 北海道北広島高等学校出身)

参加イベント：UNWTO・観光庁共催「遺産観光に関する国際会議」@奈良



2016年2月24日から26日に奈良市で開催されたUNWTOの遺産観光に関する国際会議に、観光学部生3名でボランティアスタッフとして参加しました。役割は会議のゲストスピーカー3名に対し、学生一人ひとりが専属でリエゾン(連絡係)としてゲストの予定や動きを把握し、スムーズな案内をすることでした。当初は、このような大規模な国際会議にスタッフとして参加すること、実際の会議の様子があまり把握できていない中で大仕事を頂いたことに対し、一同緊張と不安を抱いていました。しかし、前日に、運営されている観光庁やイベント企業の方と、打ち合わせや場所確認をしっかりと行い、3日間を無事終えることができました。誘導のタイミング、ご案内の仕方など苦労したこともありましたが、担当したゲストの方に、感謝の言葉を頂けたことで、何事にも代え難い喜びを感じることができました。世界中から約200名という大勢の方々が参加された今回の会議で、リエゾンという大役を体験させていただいたことは、今後社会に出てからも活用できる大きな経験となりました。何より一般参加とは異なり、国際ゲストの方と間近で観光に関する質問や意見交換をできたこと、楽しくお話しできたことは他ではできない貴重な経験です。また、会議の運営・実施の様子や、あらゆる文化的背景を持つゲストの方々へのケアなど、普段目にする事のない裏側を間近で拝見させていただいて、非常に学びの多い三日間でした。

(本当に良い経験ができ、人脈や視野を広げることができます。少しでも興味があれば是非参加してみてください。)



■ 漆畑 加那さん (2015 年度卒業生 / 大阪府立住吉高等学校出身)

参加イベント：サンティアゴ・デ・コンポステラ大学「JAPAN DAY」@スペイン



和歌山大学とサンティアゴ・デ・コンポステラ大学の正式な大学間提携が2015年10月に行われた。その際に、大学で行われた「JAPAN DAY」というイベントに参加し、和歌山大学での生活についてプレゼンテーションを行った。私たちのプレゼンテーションの目標は「和歌山大学に留学したいと思ってもらうこと(そして実際に留学してもらうこと)」であった。

イベントはサンティアゴ・デ・コンポステラ大学の大ホールで行われた。大勢の学生、一般の人々でホールは満杯になり、

立ち見をする人までいた。日本にこれほど多くの人々が興味を持っているということに感激したが、同時にプレゼンへのプレッシャーも重くなっていった。プレゼンテーションの内容は、3人で意見を出し合い、

職員、先生、他の学生の力を借りて、自分たちが留学生だったら、どんな情報を聞いたら「楽しそう、行ってみたい」と思うか、内容を練りに練った。渡航前にも、現地のホテルでも何度も練習し、関係者全員で力を注いで和歌山大学のえりすぐった魅力をつめた7分間の発表を行った。プレゼンテーション中、皆大変な緊張を感じていたが、何度も笑い声や驚きの声が上がったことで、緊張がほぐれていった。特に盛り上がったのは、よさこいサークルの和歌乱に所属する学生の一人が、踊りを披露したときだった。「見えにくい場合はどうぞ起立ください」と言った瞬間に、ほぼ全員が良く見ようと立ち上がっていた。あっという間に7分間が過ぎて、プレゼンテーション終了後、大勢の人が私たちに質問をしてくれた。「部活はいくつでもはいることができるのか」「私もよさこいをやりたい」「本当にたぬきがでるのか」などいろんなことについて質問された。そして最もうれしかったことは、全員が「是非和歌山大学に留学してみたい」と言ってくれ、私たちのプレゼンテーションでの目標が達成されたことであった。



■ 佐竹 真由さん (学部3回生／和歌山県立那賀高等学校出身)

参加イベント：国際学会『The 5th Asian Forum for the Next Generation of the Social Sciences of Sport』 木浦大学@韓国



私たち伊藤ゼミは2016年2月16日から18日の3日間、韓国の木浦大学で開催された「The 5th Asian Forum for the Next Generation of the Social Sciences of Sport」に参加し、「The Intentions of Volunteering at the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games and Past Volunteer Experiences: The Roles of Different Types of Volunteer Activities」といったタイトルのポスター発表を行ってきた。本研究は、笹川スポーツ財団の「スポーツライフ・データ2014」の二次データ分析であり、地域のスポーツクラブ

やスポーツイベントでのボランティア経験と、東京2020オリンピック・パラリンピックでのボランティア参加希望との関係について明らかにしたものである。初めての学会発表に加え、英語での発表だったため、さまざまな苦労があったが、多くの方々の支えのおかげで「2016 Best Student Paper Award」を受賞することができ、自分たちの研究を形として残すことができたことを大変嬉しく思う。

国際的な学会であったため、韓国、中国、カナダ、そして日本の先生や学生の研究発表を聞き、他国の先生方や韓国の大学生と交流することができた。さらに、日本や韓国の同世代の発表者からも良い刺激を受けることができ、今後のゼミ活動に向けてさらに意欲が高まった。最後に、学会のイベントとして韓国の伝統舞踊観賞などを通じて韓国の文化を学べただけではなく、韓国インターナショナルサーキット（F1韓国グランプリ会場）の見学を通してスポーツツーリズムについて知識を深めることができた。今回の学会参加を通して、発表者としても観光学部生としても貴重な体験ができた。



■ 村田 直寛さん (学部3回生/奈良県立平城高等学校出身)

参加プログラム：ボホール島におけるコミュニティベースツーリズムに関する調査
@フィリピン



I would like to talk about the reasons why I decided to join The Philippines study program, and about my experience about this. There are two big reasons. The first reason is that I wanted to make sure about my English and communication abilities I want to know how many foreign people can understand what I say. The second reason is that I wanted to try a field survey in a foreign country. I have experienced field study in Japan, but I have never experienced it internationally. So I thought about joining it.

The next point has to do with my knowledge. There were a lot of interesting things in the Philippines. For example life, people, and the atmosphere. They were exciting. The field survey in The Philippines was difficult for me.

However, it was good experience and study. I could learn the way to scan things that I need for my purpose.

Furthermore, there are good points and characteristic. Especially, I like people. The Philippines are very friendly, cheerful and kind so I could enjoy

talking with them. The other good point is that food was very delicious.

I estimated the food in the Philippines food doesn't have good taste, but that was not correct. The meals were delicious, and I found that some menus were similar to Japanese food. It was a little discovery for me.

The Philippines is a very hot country, so there were a lot of things people do to avoid the heat everywhere. For example in TRIL, there are some cabins along the road. These are called "rest space" by the local villagers, and all houses have the same structure. They have airy room. TRIL's houses are made of bamboo and wood, so the house has simple structure. Therefore, they break down easily, but people can build houses quickly.

Almost all Philipinos use bikes without wearing helmets. I was very surprised. In Japan, we must wear helmets when riding motorcycles. So I felt a gap between the Japanese and the Philippino cultures.

All of my experiences in the Philippines are interesting. I could learn about different cultures and ideas. I think that it is an important thing for me to know a foreign country. Through the Philippines study program, I could get more confidence in my personal English communication skills.

Finally, the Philippines study program gave me a lot of relevant new experiences, which I will value for my entire life.

So I want to keep this experience in my mind.



■ 鈴木 聖也さん (学部3回生/初芝富田林高等学校出身)

参加プログラム：田中光敏監督講演会 ～観光プロモーションビデオで描く地方の魅力～



2016年1月28日に「海難1890」や「利休にたずねよ」等の有名な映画を手掛けられた田中光敏監督による観光映像で描かれる地方の魅力そして、観光映像に込められた思いについての講演が行われた。

内容としては、まず福井県のあわら市による観光PR映像「AWARA HAPPY FILM」について。この映像は4つの作品から成っており、それぞれの作品の脚本は勿論カメラやキャストそして炊き出し等、映像製作に携わった全ての人々は皆あわら市の市民の方だった(脚本の応募の中には、あわら市の事が好き

な他地域の住民の方からの応募もあったそうだ。)。その方たちと田中監督の指導のもとで地域への愛が溢れる映像が完成されていた。それらを通してあわら市の地域活性化に対する田中監督の思いが伺えた。

次に2015年に上映された日本トルコ友好125周年の物語を再現した映画「海難1890」の製作について。内容は映画の内容に沿った、和歌山県とトルコの『時代を超えた繋がり』をテーマに映画製作途中で田中監督が知ったトルコの方が思う和歌山県と逆に、和歌山県の県民が思うトルコの話の伺えた。公演会を通して気付いたことは、映像とは誰かの協力なくして出来ないこと。

それは地域活性化にも当てはまることで、地域の住民の方たちの協力や土地への愛が無くては成り立たないということ。次に観光地にストーリーが加わることで違う同じ観光地でも見方が変わる。例としては「AWARA HAPPY FILM」の4つの作品の内の「老人と妻、そして運転手」という作品だ。画面に映るあわら市の美しい景観が、あわら市のどこに位置するのかが分かりやすく、まるで自分もその土地を訪れているような心地になる作品だった。映像によるPR活動には新たな地域活性の可能性を生み出す力があることに気が付いた。最後に途中で諦めず何かに打ち込む、夢中になれることをする大切さについて知ることが出来た。



■ 赤澤 由真さん（学部3回生／徳島県立城ノ内高等学校出身）

参加プログラム：地区×学生による継続可能な地域活性化にむけた 寄り添い型支援体制の構築と観光・交流情報発信 (和歌山県海草郡紀美野町) ※2014年度～



1. 上神野小学校 拠点化プロジェクト

廃校となった上神野小学校を地域交流の拠点にするプロジェクトが進められています。将来的にはコミュニティカフェ、シェアオフィスや自然体験教室などを有する施設にする構想が練られており、その第一歩として、2014年度は校庭に手作りの石窯を設置。2015年度は、その石窯のお披露目会として地域の方々をお招きしてピザを振る舞ったり、長い間開催されていなかった地区の夏祭りや芋煮会を復活させたりと、徐々に活動の規模が拡大しており、今後は非常に楽しみなプロジェクトになっています！

2. 和歌山大学祭・柿の市

若い世代に紀美野町の特産品と私たちの活動を知ってもらうため、和歌山大学祭と柿の市（紀美野町農林商工まつり）に初出店しました。紀美野でとれた柿を乾燥させて作った柿チップと、こちらも紀美野でとれた金時生姜と山椒を使ったあんかけうどんを販売。両日とも完売するメニューがでるほど好評で、特産物や活動の認知度向上につながりました。



3. 上神野地区まちづくり推進会議

東京農工大学から先生をお招きし、「まちづくり体制の整備」「地域資源の活用」を主なテーマにした「上神野地区まちづくり推進会議」が2015年8月から行われており、私たち学生も地域の方々と一緒に毎回参加させてもらっています。来年度は、この会議で話し合ったことの実現に向けて頑張っていきます！

私たちが紀美野町に関わらせていただき、はや2年が経とうとしています。地域の方々と交流する機会もだんだんと増えてきましたが、「よそ者」である私たちをいつも笑顔で迎えてくださるあたたかさに触れ、より一層このまちへの愛着が増していっています。来年度もやりたいことが沢山で、今からとても楽しみにしています。これからも積極的に活動していき、大好きな紀美野がもっと素敵なまちになるお手伝いができたらと思います！

■ 河村 芽依さん（学部2回生／三重県立伊勢高等学校出身）

参加プログラム：津木地区寄合会の運営、特産品開発、情報発信、イベントを共に考える（和歌山県有田郡広川町）※2014年度～



2016年3月、津木地区のプライベートリバーで星見る会を行いました。一昨年の冬、昨年の夏に続き、今回3回目です。今回は、テーマを「自然の中に突然現れたパーティー会場」とし、「自然の中でおしゃれな気分になりながらグルメを楽しむ」、そんなイメージを膨らませて、今回のイベントは出来上がりました。9人のメンバーはグルメ班、飾り班、星班の3班に分かれ、企画を進めました。

イベントは16時からスタート。飾り班による会場全体の飾り付けや、地域の方々に協力してもらったイルミネーション、パーティー用の三角帽子・・・、楽しい空間を演出しました。また、明るい時間にはおえかき教室も開き、子どもたちとメンバーが交流しながら絵を描いている様子は誰が見ても笑みがこぼれてしまうようなあたたかな雰囲気、完成した作品もとても素敵でした。

グルメ班主催の企画は、ピザ作り体験です。子どもたちには、生地を伸ばすのとトッピングの体験をしてもらい、それをプライベートリバーの石窯で焼きました。子どもたちの作ったピザの形や具の載せ方はさまざま、目にも楽しい個性的なピザばかりです。



暗くなり始めた18時ごろ、イベントの時には恒例となった音楽会を役場の方とLIPメンバー合同で実施したあと、乙女

座をテーマにした人形劇を上演しました。子どもたちの反応も良く、手応えを感じました。今回は天候にも恵まれ、きれいな星空を見上げることができました。これまでに2回星見る会を開催しましたが、天候や空を見上げる時間によりきちんと星座を見ることができなかったのが、嬉しかったです。イベント後、寄合会の方々が作ってくださったおにぎりとおでんを食べて体を温め、素敵な1日だったなぁと実感しました。

今回のイベントでは、第1回・第2回の反省点を活かすことができました。継続して行うことで、地域の方にも「またやるんでしょう?」「楽しみにしてるね」と声をかけていただけるようになりました。今後もまた寄合会の方と話し合いながら工夫を重ねてより良い企画をつくっていきたいです。

■ 光成 知佳さん（学部3回生／大阪府立三国丘高等学校出身）

参加プログラム：世代間交流を推進する地域拠点の企画・運営（認知症カフェでの実践を通じて）（和歌山県海草郡紀美野町）※2015年度～



紀美野町では、平成27年度より、認知症当事者やその家族、地域住民が気軽に集い、交流することを目的に、認知症カフェ「きみの＊にこカフェ」を開催している。このカフェは、町内のコミュニティカフェを活用して月に一度実施されるもので、年齢、性別を問わず多様な人びとがカフェを訪れることで、認知症当事者やその家族に楽しみや安らぎを与えるとともに、カフェ参加者の認知症への理解が促進されることが期待され

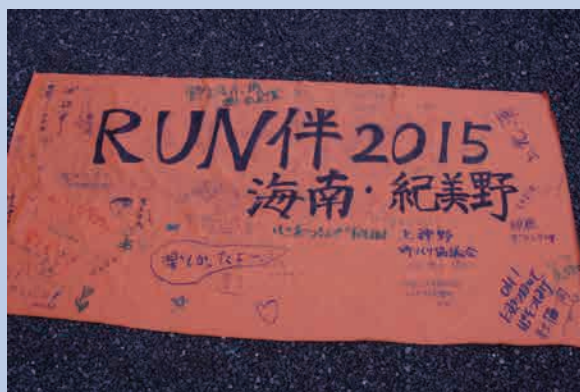
ている。しかし、少子高齢化が進展する同町においては若年層の積極的な参加が見込めないことから、私たち和歌山大学観光学部生6名がLIPを通じて、継続的にカフェに関与することとなった。

本プログラムの主な活動は、①カフェの企画、運営への参画、②その他の活動に大別される。まず、①カフェの企画、運営への参画では、基本的にカフェに置かれているテーブルに着き、認知症当事者や専門職、地域住民を含めた参加者との会話を楽しんでいる。また、折り紙や塗り絵、茶話など、通常行われているものとは違うレクリエーションを企画することがある。具体的には、地域の小学生が参加した7月、8月（夏祭り）、12月（クリスマス会）のカフェにおいて、ゲームや出し物、ワークショップなどを企画、実施した。

②その他の活動としては、認知症への理解を深めるためのランニングイベント「RUN伴」や、紀美野町における認知症支援体制構築事業のひとつである認知症高齢者への安心声かけ練習や傾聴講座に参加し、町内における認知症支援体制の構築に寄与する活動にも取り組んだ。

また、次年度に向け、カフェの概要について地域内外に対してPRすることを目的にパンフレットを作成したことも重要な活動のひとつである。

最後に、認知症カフェや町内の活動は、私たち学生にとって、認知症や高齢者に対する理解を深めたり、自らの立場について振り返ってみたり、そして自身や周りの人びとの生活、生き方について改めて考える機会となった。次年度からは、にこカフェでのイベントの企画に加え、地域の人びとに認知症カフェを知ってもらい、認知症への理解が広がる機会をつくっていきたいと考えている。



■ 唐崎 翔太さん (学部4回生 / 大阪青凌高等学校出身)

～観光学部から留学中の学生からのレポート～

留学先：トルコ・チャナッカレオンセキズマルト大学 (2015年9月～)



僕トルコに来てかれこれ半年が過ぎました。チャナッカレの街は今日も綺麗で穏やかです。さて、留学直前に未知なる異国に思いを馳せ、頭を過ぎることは多々あるかと思いますが、当時の僕の場合、最大の疑問は「トルコ人？どんな人達やねん？」ということだったように思います。トルコ人を端的に言い表すとすれば、「驚異的なまでに親切&人懐っこい」。基本的に地図を開いていれば道を教えてくれる(知っているとは限らない、知らなければ知らないなりに適当なことを全力で教える)、急に立ち止まって一緒に写真を撮ろうと言ってくる、また特に日本人に対する友好意識は目を見張るものがあります。僕自身、この

ような彼らに質問したことが何度もあります。「なぜトルコ人はこんなにも親切なの？」と。いつも返ってくる回答は「イスラム教徒だから。相手がどの国の人でも困っていたら助けてあげるのは当たり前。」という趣旨のものばかり。トルコ人だから、トルコ人は、というような僕の狭い視野では、いつまで経っても彼らの寛大な心意気に及ぶことは到底なさそうです。『海難 1890』も上映されましたが、トルコ人はもちろん、ムスリムの方々に對しての理解が日本人にも広がることを切に願うばかりです。



Topics -過去のイベントとニュース-

■ 鹿児島県立甲南高等学校『ブラッシュアップセミナー』の講師を務めました



鹿児島県立甲南高等学校では、毎年、同校2年生を対象とした『ブラッシュアップセミナー』が行われています。本セミナーは、大学教員を講師に招いて大学の講義を体験するというもので、今年度は15講座がひらかれたとのこと。そのうちの1講座に本学部の竹林明教授が講師として招かれ、2015年11月20日(金)、同校にて「観光地マネジメント～魅力あるまちづくり～」と題した講義を行いました。

講義では、「観光学」の学際性と和歌山大学観光学部の特徴を紹介した後、経営学の視点から『魅力あるまちづくりと持続可能な観光地の関係』について、日本の現状を踏まえながらその問題点と課題について解説しました。大学の講義の雰囲気を感じ、そして「観光学」という学問に興味を持っていただけたなら幸いです。

➔ <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2016021500243/>

■ 廣岡ゼミ：るるぶトラベル「ひと味違う冬の白浜」発表！



観光学部廣岡裕一ゼミでは、JTB グループの運営する、るるぶトラベルの Web サイトに、「和歌山大学 × るるぶトラベルコラボ企画」として「あなたは何する？ひと味違う白浜の旅」をご当地自慢プランとして発表しました。これは、昨年の「冬の白浜でポツとする旅」に続く白浜の宿泊企画です。

今回発表の「ひと味違う冬の白浜」は、2016年1月5日(火)から、るるぶトラベルのホームページに掲載しています。

冬の白浜で、あなたにぴったりの旅行プランを見つけてください！

➡ <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2016021500120/>

■ 4 回生有志卒業旅行で白浜再訪



和歌山大学観光学部 4 回生の約半数 63 名が、2016 年 1 月 27 日 (水) から 1 泊 2 日で、卒業旅行で白浜を訪れました。

観光学部では、1 回生で毎年研修旅行を実施していますが、その際宿泊した白浜温泉「むさし」に卒業を前に再度旅行する計画を、高田尚紀さんを代表に、前期より進めてきたのが実現したものです。

1 回生での研修旅行は、実際に県内の様々な観光地を訪れることで観光に関心

を持つきっかけとなる、観光学部生が大学生活で最初に体験するフィールドワークです。

そして今回の思い出の地・白浜への卒業旅行は、学年の半数である大人数を集めるノウハウ、参加者が満足できる旅行内容、宴席運営、そして秋津野ガルテンを組み込むといったニューツーリズムの視点も取り込んだ行程設定など、観光学部で学んだ成果が、概念だけでなく現実化できることを示せた実例であるといえます。

➡ <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2016021500069/>

■ 和歌山の土産物「かきちっぷす」が日本経済新聞で紹介されました



本学部北村ゼミと和歌山県橋本市のお土産物製造卸業「株式会社オカザキ紀芳庵」との共同研究でデザインした、和歌山のお土産物「かきちっぷす」が日本経済新聞（2016 年 3 月 2 日、全国版）に掲載されました。

和歌山県の特産品で日本一の収穫量を誇る柿を使った「かきちっぷす」の開発にゼミとして共同研究に参加し、学生（廣田早稀さん、縄田彩夏さん）のデザインしたパッケージで販売されています。

➡ <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2016033100035/>

■ 観光教育研究セミナー 2015 / 講演会 / シンポジウム

2015年9月～2016年3月に開催された、観光学部、国際観光学研究中心主催の公開セミナー等は以下の通り。参加者は国内外の多様な事例を通して視野を広げた。

- ・ 9月27日 World Tourism Day 記念イベント：観光教育フォーラム 2015
「大観光時代の観光教育について考えるー10億人の観光客、10億回のチャンスー」
- ・ 10月～1月 2015年度 観光カリスマ講座
- ・ 11月5日 観光教育研究セミナー 2015 Vol.6
「講談師が語る「エルトゥールル号海難事件とトルコ航空機日本人救出劇」」
- ・ 11月18日 観光教育研究セミナー 2015 Vol.7 「Sport Event Volunteering」
- ・ 11月28日 地域活性化システム論 2015
- ・ 12月9日 観光教育研究セミナー 2015 Vol.8 「Mind the Gaps? Tourism Risk Management Research」
- ・ 12月10日 観光教育研究セミナー 2015 Vol.9 「教育旅行と危機管理」
- ・ 12月16日 観光教育研究セミナー 2015 Vol.10 「The politics of tourism policy process」
- ・ 12月18日 和歌山の地域資源を考えるセミナー I 「紀州高野組子細工」
- ・ 1月28日 田中光敏監督講演会「観光プロモーションビデオで描く地方の魅力」
- ・ 3月8日 国際シンポジウム「Tourism and Sustainability」

Future Events ー今後のイベント紹介ー

■ オープンキャンパスツアー&オープンキャンパス 参加者募集中!



2016年度オープンキャンパスツアー&オープンキャンパスツアーが下記の通り開催されます。

詳細情報は、決まり次第、観光学部 HP でお知らせします。

【オープンキャンパスツアー】

日時：2016年7月16日（土）～17日（日）

詳細は下記をご覧ください。

➡ <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

【オープンキャンパス】

日時：2016年7月17日（日）10時～

予定内容：大学・学部紹介、入学者選抜方法の概略、進路状況（就職・進学）説明、模擬講義、進学相談コーナー、各学部デモンストレーション・展示等、キャンパスライフ紹介、学生イベント（授業・研究活動の発表）

事前申し込み：不要

➡ <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>



■ 観光教育研究セミナー 2016 開講！ 参加者募集中！

今年度も、観光学部・国際観光学研究センター主催によるセミナーシリーズを開講します。

各回の情報は、観光学部、国際観光学研究センターの各ホームページでお知らせします。

➔ <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

➔ <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>

■ 英語サポートクラス開講！



5月16日（月）から野田日向特任助教による、英語サポートクラスが開始しました。月曜4限に初級コース、火曜1限に中級コースが行われ、総勢53名の観光学部生が受講しています。授業は主に英語のコミュニケーションを中心に進められ、野田教員の力強い指導の下、学生達は失敗を恐れることなく、積極的に英語で発言しています。単位修得の対象外授業ですが、学生の参加率は非常に高く、毎回とても賑やかです。中級コースは、まだ空きがありますので、参加を希望する観光学部生は、国際観光学研究センター（国際教育支援部門：藤田・野田）までお問い合わせください。

■ スペイン・ガリシア州青少年団との交流会開催！



国際教育研究センター主催のもと、国際観光学研究センター（国際教育支援部門）では、7月5日（火）にスペイン・ガリシア州青少年派遣団を和歌山大学に迎え、親善交流会の開催を予定しています。和歌山県の「熊野古道」とスペイン・ガリシア州の「サンティアゴへの道」は、ともに参詣の道、巡礼の道として平成10年に姉妹道提携を結び、毎年相互の青年団派遣を通して親善交流を行ってきました。今夏もスペインから計15名の青少年団が来県、さらに和歌山大学への来校が決定したことを受け、交流会のサポートを行います。

■ TED x WakayamaUniversity 開催！



2016年6月19日（日）、TEDxWakayamaUniversity が和歌山大学観光学部棟 T101 教室で開催されます。テーマは「Culture」。全国各地から10名のスピーカーが登壇を予定しています。

詳細やチケットの申し込みなどは、下記の

TEDxWakayamaUniversity のホームページをご確認ください。

➔ <http://tedxwakayamauniversity.com/>

編集・発行

(2016年6月発行)

和歌山大学 観光学部 観光実践教育サポートオフィス

和歌山大学 国際観光学研究センター（国際教育支援部門）

〒640-8510

〒640-8510

和歌山市栄谷 930 和歌山大学観光学部棟 2階 K216 室

和歌山市栄谷 930 和歌山大学経済学部南棟 1階

TEL/FAX 073-457-8553

TEL 073-457-7875

E-mail tourism-er@center.wakayama-u.ac.jp

E-mail info-ctr@center.wakayama-u.ac.jp

URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>

URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>